

田中復興大臣岩手県訪問ぶら下がり会見録
(令和元年9月26日(木) 14:50～14:57 於) 陸前高田市)

1. 発言要旨

22日の「高田松原復興祈念公園」のオープニング式典に引き続きまして、この陸前高田市をお訪ねしました。

また、昨日は釜石市を訪問し、就任の御挨拶をした後に、秋篠宮皇嗣殿下、妃殿下の御臨席を仰ぎまして、「釜石鶴住居復興スタジアム」で開催されました、ラグビーワールドカップのフィジー対ウルグアイ戦を観戦したところでございます。大変な熱戦でありました。また、会場が復興を本当に象徴するような盛り上がりでありまして、すばらしかったと思っております。

今回、ラグビーの試合の観戦をするために、国内外のたくさんの方々が釜石にお越しになったということも、大変うれしく思っております。

来月13日にも試合がありますが、今後、ますます被災地の復興の姿が世界に発信されることを期待しておるところです。

また、本日26日は、宮古市、山田町、大槌町、大船渡市、そして陸前高田市に訪問させていただき、就任の御挨拶を申し上げるとともに、震災当時の状況や復興の状況等々のお話を承り、要望も承ったところでございます。

今後とも、各市町と連絡を密にして、被災地の実情やあるいは要望等をしっかりと個別に受けましたので、しっかりと被災地に寄り添いながら、現場主義に基づきまして全力で取り組んでいきたいと思っております。

今日は地元の藤原政務官もずっと御一緒いたしました。本当に地元非常に詳しい政務官ですから、私も大変勉強をさせていただいたところでございます。

2. 質疑応答

(問) 今、8年半を過ぎた被災地ですけれども、改めて、昨日、今日と被災地の現状をご覧になった所感を教えていただいてよろしいでしょうか。

(答) 岩手県につきましては、本当に復興が相当進んでいるという感じも持ちましたけれど、やはり、各自治体ごとに事情が違いました。まだ復興半ばという感じも、ともにしたわけでございます。今後、さらに我々も力を注いでいかなければならない。

確かに10年の節目はありますけれど、あと1年半ということでは

なくて、これからも復興庁が、また私、復興大臣がリーダーシップを発揮していかなければならないという思いを持っております。
(問) 各地で要望も種々上がってきたと思うのですが、言える範囲でよろしいのですが、どういう形でその要望に応えていこうという思いがとおりしょうか。

(答) 率直に言いまして、住宅という面では相当整備が進んでおりますけれど、ひとり暮らしのお年寄りの方々などには、しっかりと心のケアをしなければならない、これがあってこそ本当に復興が果たせるという思いです。一人一人、悩みを持っていらっしゃる方がたくさんいらっしゃるという現実でございます。

もう一点は、生業（なりわい）であります。漁業・農業、自治体ごとに取り組んでこられた経験や歴史もいろいろあるわけですが、今回の大震災、大津波によって根底から状況に変化が起ってきております。

また、一方、昨今、イカやサンマがとれないという現実がありまして、そういう中で生業、産業をどう進めていくのか、そして、そこで働く働き手、若い人たちがともに生活できる、仕事ができる町でなければ継続性がないわけです。そのことも含めて取り組んでいくことが大事だとつくづく感じております。

(問) 先ほど、心のケアのお話が大臣からもありましたが、災害公営住宅等では、住まいは再建をしたのですが、自治会の担い手が高齢化しているとか、役員に負担がのしかかっていたりして非常に疲弊しているようなところがあって、コミュニティーづくりという面が大きな課題になっています。

一方で、コミュニティーづくりを支援する復興予算が一応10年、復興期間中までしか財源の担保がされていない。その後がどうなるか見えない中で、支援に当たられている方々、関係者は非常に不安な面もあると伺っています。

その後のコミュニティーづくりについて、具体的にどのようにお考えでいらっしゃいますか。

(答) 確かに、どちらでも10年という区切りで考えれば、1年半近くになってきたこの時点で、いろいろな思いを持っていらっしゃいます。

私どもも、もう既にお話ししておりますように、総理もいろいろとリーダーシップを発揮しておられますけれど、今後地元の皆さんの御意見等をきちっと尊重しながら、各方面の意見も集約して、案を作っていきたいと思っております。

財源等についても、その中で、多分、相当詰めていくことになるのではないかと思います。

今、御指摘があったコミュニティーづくりは、本当に重要だと思

っています。やはり、コミュニティーがきちんと機能しなければ町とは言えませんし、復興がなされたとは言えないものです。

このコミュニティーは、地域の市町村、ここであれば陸前高田市の市長さん、あるいは議会の皆さんを初め、本当に真剣な取り組みをいただいておりますが、そこにこれから本当のコミュニティーのあり方というものの議論があったときには、我々復興庁としても、真剣に御協力させていただいたり、また、ともに考えて行動してまいればと思っております。

コミュニティーの完成こそ、私たちが本当に願うところでございます。

(以 上)